

創立 85 周年記念誌

History of Hiroshima YMCA

コロナ禍を乗り越えて 100 周年に向けて



Y M C A とは

■日本 Y M C A 基本原則

私たち日本の Y M C A は、
イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、世界の YMCA との
つながりのなかで、次の使命を担います。

私たちは、

すべての人びとが生涯をとおして全人的に成長することを願い、すべてのいのちを
かけがえのないものとして守り育てます。

私たちは、

一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求め、喜びを共にし痛みを分かちあう社会を
めざします。

私たちは、

アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和
の実現に努めます。-----

1996 年 6 月 15 日 第 106 回日本 YMCA 同盟委員会採択

■広島 Y M C A の使命

私たちは、

イエス・キリストが示された愛と奉仕の精神をもって、
豊かに生きることをめざします。

そして、

多くの青少年が、人や自然と出会い、
異なった文化、多様な社会や価値観と出会うなかで、
夢や希望、生きる力を培うことを願います。

私たちは、

1. すべての青少年とともに、一人ひとりの夢の実現に努めます。
2. 共に生かされていることを、青少年やその家族と分かち合い、
いのちの大切さを育みます。
3. 国際交流を推進し、人のつながりによって平和な社会を実現します。
4. 健康・福祉・文化の向上に努め、幅広い地域の人たちと連携します。
5. 地球的視野に立ち、未来に向けて自然や環境を守ります。
6. 被爆体験を継承し、全ての核兵器の廃絶をめざします。

2001 年 10 月 24 日 常議員会承認

■ ジョージ・ウィリアムズと十数人の若者たち

1844 年 6 月 6 日、ロンドンで 12 人の青年があつまり、YMCA は誕生しました。産業革命によって、工業・産業は発展する一方、物質至上主義による人間性の荒廃が蔓延する世情でした。特に、少年期から労働者として働かされた青年たちの心はむしばまれていました。そんな中、ロンドンの一商店の店員であったジョージ・ウィリアムズと仲間達は、イエス・キリストの教えに基づき、青年に対し、祈りと奉仕の活動を始めたのです。それが 180 年にわたる YMCA の始まりでした。



◇創設者ジョージ・ウィリアムズ

ジョージ・ウィリアムズは、YMCA の育成に生涯をかけて尽力し、後にその功績をたたえられイギリス国王より「ナイト」の称号を授与されました。

■ 日本の YMCA の現況

日本の YMCA は、1880 年（明治 13）の「東京 YMCA」設立を初めとして、全国にひろがりました。現在では都道府県単位で組織される「都市 YMCA」が 35 都市にあり、また、全国 37 校の大学に「学生 YMCA」があります。

◇都市 YMCA

YMCA は、ミッションにもとづく人々の集合体であり、任意団体ですが、社会的活動をするための法人格として、多くは財団法人で活動しており、日本でもっとも古くからある公益法人でもあります。またその事業内容によって、学校法人や社会福祉法人、NPO 法人などの法人格で活動している YMCA もあります。

都市 YMCA の規模は様々で、大きな会館といくつもの学校を運営している YMCA もあれば、常勤スタッフのいないボランティアのみで運営している YMCA もあります。活動内容も様々です。地域のニーズによって、キャンプ活動、プールなどの健康教育事業、語学学校、専門学校、保育園・幼稚園、高齢者福祉施設 etc... です。

全国の都市 YMCA は、協力関係にあり、「日本 YMCA 同盟」をつくって全体の関係調整や、対外関係、研修、指導者養成などを行っています。

◇学生 YMCA

1881 年（明治 14）に札幌農学校において、クラーク博士の感化を受けた内村鑑三が、前年の東京 YMCA 設立の刺激を受けて設立したのが学生 YMCA の始まりとされています。学生 YMCA は、現役の学生だけではなく、シニアと呼ばれる卒業生も含み、理事会を組織し、財団法人格をもつものもあります。現在は、10 の学生 YMCA に寮があります。活動内容は、聖書研究グループであったり、ボランティア活動、学生寮活動であったり様々です。

※ YMCA はもともと「YMCA 運動」という、世界的な青年運動に触発されたクリスチャンの若者達が、世界の各地で作っていった団体です。そのため、地域によって規模も活動内容も差がありますが、全ては共通のミッションによってつながり活動を行っています。

■世界のYMCA

2023 年 3 月現在、YMCA は世界 120 の国と地域で活動を展開しています。世界中の町や村にある YMCA は 10,000 を超え、その会員数はおよそ 6,500 万人となっています。各都市の YMCA が集まって各国の同盟を組織し、各国の同盟が世界同盟を組織しています。そして世界同盟の本部をスイス、ジュネーブに置いています。世界の YMCA は地域別にも同盟を形成し、その地域に固有の課題について協議や協力を行っています。たとえば、日本 YMCA の属するアジア・太平洋地域の 25 カ国・地域の YMCA はアジア・太平洋 YMCA 同盟という地域組織を形成しています。アジア・太平洋 YMCA 同盟の本部は香港に置かれています。地域組織は、その地域に存在する YMCA が自発的、主体的に組織するもので、世界同盟の下部組織ではありませんが、世界 YMCA 運動の方針に基づいて、さまざまなプログラムをアジア・太平洋地域で実施する重要な役割を担っています。YMCA は世界で最大の青少年団体であり、民間の公益団体として国際機関、宗教団体、政府機関、市民団体などと幅広い協力関係をもっています。

■国連の諮問機関として

国連の経済社会理事会（ECOSOC）とは、国連憲章 71 条（※）に基づき、非政府組織（NGO）との協力関係をもつことによって経済・社会諸問題の解決等をおこなう組織です。世界の NGO（国連 NGO）が諮問機関となって会議に参画します。国連 NGO は、情報提供やロビー活動を通して、会議に大きな影響を与え、環境問題や人権、開発などの分野で多くの成果を上げてきています。国連での成果が、日本の国内法に大きな影響を与えることもあります。

YMCA（世界 YMCA 同盟・スイス・ジュネーブ）は上記の憲章に基づき国連（経済社会理事会）の諮問機関（国連 NGO）として参画し、世界の平和に寄与しています。

※経済社会理事会（ECOSOC）

貿易、輸送、工業化、経済開発などの経済問題と、人口、子ども、住宅、女性の権利、人種差別、麻薬、犯罪、社会福祉、青少年、人間環境、食糧などの社会問題を担当します。また経社理は、どのように教育と保健状態を改善するか、世界各地の人々の人権と自由をどのように尊重し、守っていくかといった問題についても、勧告を行っています。

※国連憲章第 71 条

経済社会理事会は、その権限内にある事項に関係のある民間団体と協議するために、適当な取極を行うことができます。この取極は、国際団体との間に、また、適当な場合には、関係のある国際連合加盟国と協議した後に国内団体との間に行うことができます。

※日本国民法第 34 条

YMCA は民法第 34 条により、生涯学習を推進する社会教育団体として認められた非営利公益法人です。

■シンボルマーク

YMCAのシンボル（正章）は、「SPIRIT」（＝豊かな心）、「MIND」（＝知性）、「BODY」（＝健康な体）を組み合わせた三角（トライアングル）。

その中心には、「すべての人を一つにしてください」と書かれた新約聖書ヨハネによる福音書第17章21節が開かれています。

それを温かく包み込む外側の円は完全なる人格を表し、XとPはギリシャ語の「救い主キリスト」の頭文字を組み合わせた世界共通のマークです。



旧ロゴ



正章



新ブランドロゴ

■YMCAの現勢（2023年3月現在）

世界の国・地域のYMCA.....120

日本での加盟・準加盟YMCA.....35

大学YMCA.....37

プログラム会員.....約 144,888 人

職員・教員.....2,872 人

非常勤職員・教員.....3,805 人

ユースボランティア.....6,734 人

都市YMCA会館.....217 カ所（全国の拠点数）

研修センター.....12 カ所

キャンプ場・キャンプ施設.....26 カ所



■バスケットボールとバレーボールの誕生について

バスケットボールは 1891 年（明治 24）、アメリカ東部マサチューセッツ州の小さな町スプリングフィールドにある国際YMCAトレーニングスクールという学校で、J. ネイスミス（James Naismith）氏によって創案されました。日本にはYMCAによって伝えられ、国内に広められていきました。わが国のバスケットボールが初めて公式の国際舞台に登場した 1917 年（大正 6）第 3 回極東選手権競技大会の日本代表チームは、京都YMCAでした。またバレーボールも 1896 年（明治 29 年）、ホリヨークYMCAのスタッフ、モーガン（Morgan）氏がミントンネットという新しいゲームをつくったあと、母校の国際YMCAトレーニングスクールで公開ゲームをしたときに、バレーボールという新しい名前に変わり誕生しました。バスケットボールもバレーボールもその誕生は、国際YMCAトレーニングスクールとYMCAスタッフによるもので、日本に初めて紹介したのも東京YMCAの体育の先生の大森兵蔵氏です。大森氏はスプリングフィールドの国際YMCAトレーニングスクールでバスケットボールとバレーボールを本格的に学んだ最初の日本人だったのです。その後、日本ではYMCAを通じて全国に広まっていきました。

■ YMCAブランド



■ YMCAブランドコンセプト制定

日本のYMCAでは、これからも地域社会においてなくてはならない存在であり続けるために、ブランディング・プロジェクトに取り組み、2016年6月に「YMCAブランドコンセプト」を定めました。YMCAが願う世の中の姿をビジョンとして示し、社会に提供できるYMCAの「宝＝価値」を磨き、その価値を広く効果的に伝えることによって、より多くの方から共感、支援、賛同を得ることを目指しています。

ブランドビジョン

YMCAが実現したい世の中の姿。

ブランドバリュー

YMCAがビジョン実現に向けて、提供を約束する価値。

ブランドパーソナリティ

YMCAが備えているべき個性、らしさ。

■ YMCAブランドコンセプト

Vision

互いを認め合い、高め合う

「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。

「ポジティブネット」Positive Net

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。

課題の多い社会のなかで、それは、生きるためのひとつの選択肢となっていく。私たち日本のYMCAは、グローバルなネットワーク基盤を活かしてポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ります。

Value

したい何かがみつき、誰かとつながる。

私がよくなる、かけがえのない場所。

みつかる
Encounter

つながる
Connect

よくなる
Transform



Personality

心をひらき、わかち合う。

前向きで、まわりを惹きつける

魅力を持つ。

■ ブランドロゴ・スローガン

鳥が飛び立とうとする瞬間の姿を、アルファベットのYが想起される形に重ねあわせています。右上の赤い逆三角形には、YMCA正章に記された「全人」の精神と、YMCAが約束するブランド価値「みつかる。つながる。よくなる。」の両方が込められています。曲線と赤い色によって、生命の息づかい（生命感）と、希望ある豊かな社会を実現して行こうというYMCAのポジティブな姿勢を示しています。



愛称” ポジティブY”

みつかる。つながる。よくなっていく。

ブランドスローガンは、YMCAのブランドコンセプトに込めたエッセンスを端的に伝えるメッセージです。YMCAが定めたブランドコンセプト（上記）のバリュー（価値）、「みつかる。つながる。よくなる。」の結びを、「よくなっていく。」としました。出会いとつながりから生まれる「よくなる」チカラが連鎖して、一人ひとりが、そして地域が、社会が「よくなっていく」、そのような願いをこめています。

YMCA 前史

1868年 王政復古の発令により天皇を中心とした新明治政府が樹立された。

新政府は和魂洋才・富国強兵・立身出世等のスローガンの元、外国と対等に渡り合えるような国力をつけるため、外国の技術を学ぶための洋学校を全国に設立した。そこには幕府への忠誠を失った下級武士の子弟が多く学ぶこととなるが、西洋の新しい文化にふれる中で、外国人講師からキリスト教という新しい価値観の影響を多く受けることとなる。天皇や国家に滅私奉公を強要する新政府とは真逆のキリスト教の思想は、多くの若者に共感を与える結果となった。

しかし、そういったキリスト教教育は、天皇を神とする新政府にとって脅威の思想であり、キリスト教教育を行った学校の多くは廃校に追い込まれることとなる。熊本に設立された洋学校は、そこで学ぶ学生達が、花岡山においてキリスト教を布教していく事を誓うための「奉教趣意書」にサインしたことを発端に廃校に追い込まれた。熊本洋学校が廃校となり、行き場を失った学生たちを受け入れたのが、現在の同志社大学である。創始者の新島襄は、妻の新島八重と共に熊本の学生たちと多くの軋轢があったものの、卒業まで彼らを導き、社会に送り出した。この熊本洋学校出身の同志社の卒業生たちが、後の日本のキリスト教会の中心人物となり日本各地にYMCAを作っていくこととなる。



熊本洋学校の学生達 熊本バンドと呼ばれた



小崎 弘道
東京YMCA



原田 助
神戸YMCA



宮川 経輝
大阪YMCA



1883年の第三回全国基督信徒大親睦会の幹部
新島襄をはじめ小崎の顔なども見える

1880年の東京YMCAの設立に続き 1882年には大阪YMCA、1884年には横浜YMCAが設立された。全国にYMCAが設立されていく中、1890年に日本YMCA同盟も設立された。

1890年頃に広島でも基督教青年会と言われる組織の設立の機運も生まれたが、1894年日清戦争勃発により、YMCA設立までには至らなかった。



1894年日清戦争にさきがけ広島の街は一大軍都としての発展を遂げた。

江田島海軍系学校の移設、広島城への大本営設置、遷都のための国会議事堂の建設、宇品港の整備拡張、広島市の1/4は軍用地として使用されるまでになった。

軍都として発展していく広島にYMCAは設立されなかった。



1894年（明治27年）に勃発した日清戦争の戦争指揮のために広島市の広島城（現中区基町）内に設置されたのが、大日本帝国軍の最高統帥機関である大本営である。



日清戦争開始にともない臨時首都となった広島で帝国議会が開催されることになり、竣工までほぼ20日間という突貫工事で作られた仮設国会議事堂が市中心部に建てられた。



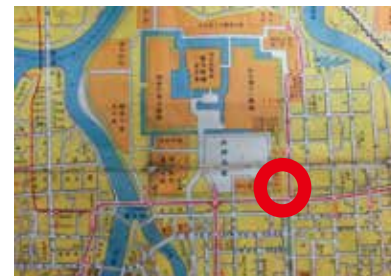
古くから広島や呉は瀬戸内海の造船の盛んな地域として、三菱重工業広島造船所等がある。戦争末期にもなると人間魚雷回天なども製造された。



1889年11月～1894年、5か年に及んだ宇品港の築港工事が完成した。さらに、1894年6月には、山陽鉄道が広島まで開通し、戦争への準備が進んでいった。



1888年（明治21年）に呉市の呉鎮守府に近接した広島県の安芸郡江田島町（現在の江田島市）に海軍兵学校が移転された。



大本営設置により、広島の街は一大軍都への発展を遂げる。現在、広島YMCAがある場所も陸軍の軍用地であった。

熱望されたY M C A設立 戦争の影が迫る



1935 年 11 月 25 日 広島金座街・大隈洋行の3階で行われた、Y M C A設立相談会。Y M C A設立をめざす学生や教員が集まり、意見交換を行い、Y M C Aの設立を誓い合った。精神的設立と呼ばれた。



1936 年 7 月 京阪ワイズメンズクラブが来広し、激励のためのY M C A旗が贈られた。「広島ノ諸君ニモ異常ナル感激ヲ与エタコト信ズル」と当時の機関紙「開拓者」にも記されている。この時寄贈された「Y M C A旗」は、その後の活動のシンボルとなった。呉婆々宇山登山や発会式の写真にも、この「Y M C A旗」が写っている。



1936 年 9 月 24 日 同年 7 月に京阪ワイズメンズクラブのメンバーから贈られたY M C A旗を持ち、会員と子ども達を連れ 20 名で呉婆々宇山登山を行った。この経験がその後の活動の大きな自信となった。



発会式にて行なわれた斎藤惣一同盟総主事講演会「基督教青年会の使命」
発会式では、下記のローマ信徒への手紙 12 章が拝読された。戦争に向かう日本を憂う創設者たちの複雑な思いがうかがわれる。

【礎（いしずえ）】 ローマ信徒への手紙 12 章 14-18 節

希望を持って喜び、苦難を堪え忍び、たゆまず祈りなさい。あなたがたを迫害する者のために 祝福を祈りなさい。
祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。できれば、せめてあなた方は、すべての人と平和に暮らしなさい。



1938 年 10 月 25 日 広島Y M C A発会式（前列左より、理事大隈茂吉、賛助会員松井礼蔵、特高警察課長、憲兵隊長、横山広島市長、斎藤同盟総主事、菅東京Y M C A総主事、日野原女学院学院長、沢野理事長）

1844 年、イギリスのロンドンにおいてジョージ・ウィリアムズと 11 人の仲間によってY M C Aが創立された。それから 36 年後の 1880 年、日本で初の東京Y M C Aが誕生した。創立者の小崎弘道は、「Young Men」を訳すのに苦心した結果、『青年』という言葉を作り出した。

1890 年にはこの広島においても、最初の基督教青年会が誕生したが、日清戦争の最中、記録の中から消えていった。蒔かれた種は半世紀を経て、ようやくその芽を出すのである。軍靴の足音が高くなった 1932 年、青年たちの中から再び広島Y M C A設立の声が起ころはじめ、1935 年 11 月には広島Y M C Aの精神的設立と言われた広島Y M C A設立相談会が行われた。戦時体制の進行にともない青年が徴兵で少なくなる中、「礎石だけは残しておこう」との思いが、1938 年 10 月 25 日の広島Y M C A発会式となったのである。

運命の8月6日

8月6日 広島YMCA委員長 中尾一真の手記より

あのとき、私は広島市の東端、向洋の東洋工業株式会社（現マツダ株式会社）の勤労部の事務室にいた。従業員八千、勤労働員学徒二千を擁する工場の教育主任として、自分の机についていた。

真夏の快晴の朝だった。八時十五分頃、突如、写真を撮る時のマグネシウムか、閃光電球の光のような、そして、それよりも、何千万倍も強烈な閃光が空間を走った。

「その場待避！」私は反射的にそう叫んで机の下に身をかくした。閃光ののち、何秒くらいの間隔があつたのか覚えていない。つぎに来たものは、はげしい風圧による、窓や扉のガラスの割れる音だった。続いて、女の子たちの悲鳴が聞こえた。私は机の下から身を起こした。福原という老社員が、顔を両手で押さえてうつむいている。指の間から血が流れている。ガラスの破片にやられたのだ。私は室内を見まわした。ほかに負傷者はないらしい。私は老人に付添って、会社の附属病院（現マツダ病院）へ出かけた。一步、部屋の外に踏み出し、顔を西に向けたとき、私の見たものは広島市の真上にもくもくと盛り上がっている巨大なきのこ状の雲のかたまりだった。

私はふと、幼い日、日曜学校で開いた、旧約聖書、出エジプト記の、モーゼと彼に従うイスラエルの民を導いたといわれる、あの雲の柱の物語を思い出した。

病院への途中、あちらからも、こちらからも、頭をおさえ、顔をおさえ、腕から、脚から、血を流した人びとが集まってくるのを見た。私は急いで勤労部へ引き返し、高等師範（現広島大学教育学部）の上級学生二〇名を集めて、学徒中の負傷者の調査を依頼した。各校のつき添い教師と連絡をとった。

そして、ふたたび病院へ行ったとき、病院の状態はまったく一変してしまっていた。空襲を受けた広島市民が、いちばん広い道を、東へ向かって避難するとき、最初に見出す医療機関が、この病院だった。すでに病院は火傷患者でいっぱいだった。

私は、「おじさん！なんとかして！」と、私に呼びかけた十五、六歳の女学生の姿を忘れることができない。制服はボロボロに焼けこげ、ほとんど裸体に近く、頭髮は焼けちぢれ、顔の皮膚は焼けてめくれ、赤い肉が露出し、顔全体がブクブクに腫れていた。私は、ガーゼをつかんで、油にひたし、歯をくいしばって、無茶苦茶に塗ってやる他なかった。

私は少し前に、呉市の空襲の被害の状況を見ていた。そして、広島を見舞った今度の空襲は、今までのものとは異なっていること、しかも、恐ろしい被害であることが、だんだんとわかってきた。私はふたたび勤労部へ引き返して、集められるだけの女子従業員、女学生を集めて、看護のために病院へ送った。負傷者は、ぞくぞくとつめかけて来る。会社はこの人びとを収容するために、各食堂を開放した。寄宿舎も提供した。医薬品の全ストックはもちろん、機械油、潤滑油、布類、必要なあらゆる物の倉庫を開き、全員を動員して、救護に当たった。炊事場は、働く者と避難者のために握り飯をつくり、患者のために粥を作った。会社は一大救護所と化した。

午前十一時頃、私は、呉海軍の自動車を見つけて便乗を乞い、走行三キロ、広島駅の近くまで行つたが、すでにどの道も猛火にさまたげられて、市中へ入ることはできなかった。帰途、大州町の自宅へ寄った。建具類は吹き飛び、



被爆直後、広島市に立ち上るきのこ雲

壁はくずれ、箆笥や戸棚や机は倒れ、部屋中ガラスの破片が散乱し、固い檜の木のテーブルにガラスが鋭く突きささっている。十分に活動できるように、下着から上着まで全部着がえた。靴下も靴も登山用のものに履き替えた。水筒も持った。やがて火はこの家をも包むかもしれない。私はしばらく周囲を見まわした。そして、隣家へ挨拶して、会社へ急いだ。会社は数日前から、市内鶴見町、鶴見橋西詰め附近の民家、一八六戸の疎開取り壊し作業を、県から命ぜられて、毎日作業隊を出していた。その日も、約二〇〇名の従業員が出動していたが、その負傷者が帰ってくる。どの食堂も患者で満員になり、親しい者の安否を気遣う従業員の近親や一般患者の家族がつめかけてきて、工場は混雑した。

やがて、その収容者の中から、死ぬ者が出だした。午後五時頃、会社附属の青年学校長大津氏が市内で重傷を負い、第五食堂に収容されていることを開いて見舞いに行った。もう人事不省だった。病院に運び込まれたときには、まだしっかりしていて、「私はあとでいい、重傷者を先にしてあげてください」と、手当ての順序を譲っていたという。その夜私は、宿直だった。工場防護団本部兼空襲被害対策本部の地下室にあって、二つのラジオ、四つの電話機、一〇人の伝令のなかに身を置いて徹夜でがんばった。夜中に空襲警報が発令された。朝の空襲で市内の中心地をやられたのだから、今度こそ工場地帯をねられるだろうと、覚悟をきめていたが、爆弾は落ちてこなかった。大津校長永眠の電話を受けて寄宿舎へ行った。舎監室にただ一人、さびしく遺骸は置かれてあった。寄宿舎を一巡して、負傷者を見舞った。たくさんの人びとが苦しんでおり、たくさんの人びとが死んでいる。私は言葉もなく、本部へ引き返した。

午後十時頃から十一時頃にかけて、状況調査のため、各方面へ派遣していた若者たちが、つぎつぎに帰ってきて、その見聞を報告した。市中はほとんど全滅である。西は己斐方面、南は宇品方面、東は段原方面がわずかに火災をまぬがれているが家々は大破しており、猛火はさらに拡がりつつあるという。私は、その日一日、弁当を食べることを忘れていた。深夜、みんなが出はらった宿直室で、朝、家で作って持ってきた、焦げたご飯を丸めただけの握り飯を食べながら、不覚にも泣いた。市中にある親しい人びとの運命を思い、とうてい生きてはいないだろうと思って、机の上、握り飯の上に、ポタポタ、涙を落とした。



戦前の東洋工業（現マツダ株式会社）



建物疎開の様子 東洋工業の社員も従事した



被爆75年 8月6日の記憶
広島YMCA 中尾一真の手記

広島YMCA

8/6～8/8までの記録は、当時YMCA委員長であった中尾一真の手記に記されている。中尾は結果的に戦争に加担してしまったことを悔い、生き残った会員たちと戦後のYMCAの復興のため奔走した。被爆1年後の8月6日に現在のNHK放送局よりラジオにて、平和宣言（本誌P10に記載）を全国に向けて放送した。

1945年8月6日の原爆投下により、廃墟となった広島の地において、YMCAの復興は早かった。1945年11月、3名の青年と3名のOBが広島YMCAの再建を決意し、講演会やクリスマス会など多彩なプログラムをスタートした。

そして、1946年8月6日、広島YMCA委員長の中尾一真は生き残った会員やキリスト教徒を代表して、NHK広島放送局のマイクを通して、全国に向けて平和宣言を行った。



1940年代後半 被爆地広島・復興への歩み

1946年秋。焼け野原の国有地「偕行社跡」を調査する会員たち。「広島復興はYMCAから」を合言葉に、被爆1周年には全世界に向けて「平和宣言」を発した広島YMCAであったが、創立以来、会員達が常に願ってきたのは活動拠点の確保であった。1946年11月27日八丁堀北側の国有地の借用に成功し、今日の広島YMCAの基礎ができたのであった。

【平和宣言】

- 一、我らは、戦争の惨禍の防止に対し、力弱くして、なすなかりし過去を衷心より懺悔す。
- 一、我らは、神は父、人はその子、お互いに兄弟なりとのキリスト教の教えを再確認し、死に至るまで忠誠なる信仰の復興を全身全霊を持って祈願す。
- 一、我らは、衣食住すべて乏しく、悩み多き世の中に処し、ただ己の如く隣人を愛する兄弟愛の実践のみ、この苦境を突破しうる、唯一の道なることを信じ、この忠実なる実行に神の助けを切望す。
- 一、我らは、キリストの教えに対する信仰と、その実践こそ個人を救い、郷土興し、祖国を生かし、世界に平和をもたらす無比の一路なることを確信し、常に言葉と行いをもって、その福音の宣伝に努力す。

全日本並びに、全世界の同信の友よ、
願わくば我らのために祈りたまえ。

1946年8月6日
広島基督教青年会 委員長 中尾 一真



1946年4月。広島YMCA復興に奔走する活動会員。

原爆で壊滅した広島YMCAであったが、1946年4月永井三郎（日本YMCA総主事代行）の来広により、その再建はより具体的な方向へと進んでいった。謄写印刷や英語講習会で資金を獲得、講演会やクリスマスなど多彩なプログラムを展開していった。写真は大橋利雄、井尻清造、永井三郎、中尾一真等、



1949年7月5日 建設促進会でダーキン氏をむかえるYMCA会員（左）
1949年11月 建設中のコンセットハット（右）
土地は確保した、専任主事が赴任した。あとは活動をひろげていく会館が必要である。オーストラリア軍YMCAより軍用兵舎・コンセットハット2棟の寄贈申し出があり、これを機に新しい会館の建設運動が加速した。



1951年12月9日 学生Y M C A主催の降誕節（アドベント）礼拝に集まった学生達。戦後6年を迎え、多くの会員や学生が夢や希望に満ち、広島Y M C Aに集った。翌年には新しい会館が与えられることとなる。原爆の子の像建立運動や原爆ドーム保存運動を指導した河本一郎や2017年ノーベル平和賞の受賞スピーチを行ったサーロー節子も青年時代をY M C Aで過ごした。



1952年1月27日 いよいよ会館建設の起工式が行なわれた。世界青年復興資金から3万ドルが寄せられた。喜びに満ちた青年会員に囲まれ、当時の広島市長・浜井信三氏が鉄入れを行なった。街のインフラ整備・都市計画とさまざまな課題が山積していた広島市にとってもY M C Aに対する期待も大きかった。



会館建設に尽力した人物としてY M C A同盟名誉主事のダーキン存在は忘れてはならない。当初GHQの仕事で被爆2ヶ月で来日したが、広島の状態を目にし、復興のため1946年の土地借用に大きく貢献した。1948年4月専任主事の井口保男の赴任によって会館建設は大きく動き始めた。1949年オーストラリア軍Y M C Aより、コンセットハット（蒲ぼこ型兵舎）2棟の寄贈があり、それを拠点として、Y M C A活動と共に会館建設のための準備が進められた。1950年2月、ヴォーリス設計事務所から設計プランが寄せられたことで会館建設が具体化した。北米Y M C A世界青年復興資金から3万ドルが寄せられ、さまざまな困難があったが、1952年1月の起工式を経てついに7月落成となった。敗戦からわずか7年、佐伯好郎理事長、中村藤太郎理事をはじめとする理事会、井口総主事等の総力をあげた大事業であった。



「世界青少年友情の泉」の前でよろこびの表情を見せる井口総主事、浜井信三広島市長の顔も見え。（写真左）この泉は原爆後、多くの子ども達が水を欲して死んでいったため、子ども達がいつでも飲めるよう一般に開放された。友情の泉のプレートは今も2号館の壁面に残されている。



1952年7月19日。当時としては、「すばらしい建物」が焼野原に出来たというので、大変な噂であった。若い会員達は、さまざまなプログラムを企画し会館落成を祝った。玄関脇にはフィリピンの子供達が靴磨きを行ってためた募金から「世界青少年友情の泉」が設置された。



1950年代 新たなる歩み

YMCAに集まった若者達。

戦後、総主事井口保男のもとに集まった青少年は、まさに多種多様で品行方正、優等生だけの集団ではなかった。しかし、平和の願いを根底にもつ広島YMCAの青年活動は、40ものサークルを軸にした全国的にもユニークな活動として注目された。その中には、平和・奉仕・文化活動など様々な取り組みがあった。また、成人ではワイズメンズクラブを設立し、YMCA活動を支える基盤が整備された。中でも青少年育成の役割を果たしたのが、1954年宮島南端の山白浦で始まったキャンプであった。1958年には、キャンプサイトが整備され、組織的なキャンプ活動が本格的に行われるようになった。この山白浦からは、多くの優秀なリーダーが育ち、現在、地域社会のさまざまな分野で活躍している。



1950年代のパフレットより

智・徳・体の三育と社交の四方面に亘る近代的な「全人格教育」の理想のもとに小学生、中学生、高校生又勤労少年少女に勇気と希望を与え、日常の生活指導と学習指導を父兄の理解と安心のうちに、たえず学校や家庭と連結を保ちつつ、放課後の余暇を最大限有効に利用して、勉強に遊びにいそしんでいきたいものです。YMCAは建物ではありません。運動なのです。学習活動を通して人間像を形成してゆき、グループを通して人間相互の信頼をより高め、生活の中に自身の力で協力と友情と奉仕をみだし、よき中堅となつて明日の社会に有為な人材を養成することを目的としています。

現在のように多くのクラスがあるというのではなく、放課後の余暇活動やグループ活動を通して人間形成ができる場であるということを唱っている。



1950年代初期～1960年代中期にかけては、従来からの会員活動を拡大しつつ、新規事業へのチャレンジを行った。

- ◆ 保育園事業の立ち上げ
- ◆ キャンプ事業の立ち上げ
- ◆ 英語事業の立ち上げ
- ◆ 体育事業の立ち上げ
- ◆ 教育事業の立ち上げ
- ◆ 国際交流活動の開始

1951年10月21日 青年会員による音楽会が広島女学院にて開催された。



1948年4月 広島ワイズメンズクラブは、国際ワイズメンズ協会に正式加盟となり、YMCAをサポートする体制も整ってきた。



1950年3月12日 広島においてワイズメンズクラブ日本区大会が開催され、浜井広島市長を招いての会食が行われた。



1950年12月「お友達助け合い運動」始まる。
この年に始まったこの運動は、少年部会員を中心に、毎年12月1日より20日まで寒風吹きすさぶ街頭で募金活動を展開し、冬の風物詩として広島街に定着し、他団体の運動を喚起し、大きな輪の中心的存在となった。1970年に幕を閉じた運動は、その後、YMCAの国際協力募金活動へとつながっている。



1952年 西部地区レイリーダー協議会 青年会員がYMCAの運営に携わった。
井口・森田・奈良・相原と歴代の総主事や河本一郎が写った珍しい写真。



1953年5月5日 会館ができ、コンセツトハットの1棟を保育園として開園。共働きの家庭を助けた。



1954年 広島市公会堂で開催された「市民クリスマス」
市民クリスマスはYMCA再開の1946年より継続され、1954年には延べ7000名もの広島市民が集うプログラムに発展した。



1953年 高校内にもYMCA活動は浸透。この活動は「HI-Y」と呼ばれ、市内9校で連盟が結成された。



1953年4月20日 大学予備校が開校し、広島YMCA学園として、大学受験や中学浪人のサポートまで行った。

1950年代 Y M C Aを支えた人たち 「河本一郎と折鶴の会の子ども達」

戦後、間もなく会員宅を拠点としてY M C A活動が再開され、子供会、引揚者援護相談所、幼稚園など幅広い活動が展開された。その後、子供会活動は青年会員河本一郎らが引き継ぎ、旭子供会を皮切りに16組の子供会が広島市内一円に広まった。この活動が基となり1956年、広島Y M C Aが中心になり「広島県青少年団体連絡協議会」が結成され、初代会長に総主事の奈良常五郎が就任した。子供会育成にY M C Aがリーダーシップを発揮し、地域に貢献した。後の市民クリスマスやハイY活動として発展し、河本一郎は、原爆の子の像建立運動や原爆ドーム保存運動を指導していくようになる。



1950年6月 河本一郎（左から2人目）は多くの子供会を組織した



1952年12月 海田町で行われたクリスマス会 前列右端が河本一郎



1955年11月10日～13日全国中学校長大会にてピラ配りを行なった「こけしの会」のメンバー（写真左）。子ども達と一緒に活動した河本一郎（広島Y M C A奉仕グループ会員）の顔も見える。（後列左） 原爆の子の像の建立が決まり、建設予定碑をたてるメンバー達。（写真中央） Y M C Aに日本友和会（キリスト教主義の平和団体）の広島支部を立ち上げた河本一郎と青年会員。（写真右）



1960(昭和35)年8月6日 原爆の子の像建立後、活動を続けていた子ども達は、「折鶴おりづるの会」を結成、Y M C Aに事務局が置かれた。原爆症で亡くなった楳山ヒロ子さんの日記を読んだメンバーは、原爆の子の像の前でいち早く原爆ドームの保存を訴え、募金活動を行った。



1969年5月5日「原爆の子の像建立11周年記念少年少女の集い」が折鶴の会主催で行なわれた。平和活動の継続の事務局としての役割を担った。



2001年河本一郎亡き後、広島Y M C A理事長（当時）・黒瀬真一郎が、その意志を継ぎ、毎年5月5日には広島女学院大学と広島Y M C Aで原爆の子の像建立式典を開催している。2018年には、第60回の建立記念式典を行った。

1950年代 Y M C Aを支えた人たち 「ディーン・リーパーの遺志を受け継ぐもの」

1948年、北大YMCA汝羊寮にアメリカ人一家の訪問があった。訪れたのは、ディーン・リーパー夫妻と離乳中の男児で、北米Y M C Aからの協力主事として全国の学生Y M C A運動を指導する活動の一環だった。それから6年、青函連絡船「洞爺丸」の遭難者の中に彼の名があった。自らの救命胴衣を日本女性に与えて殉難したと報じられた。

1954年9月26日、洞爺丸は大型台風の中を乗客、乗組員1,314人を乗せて函館港を出港、青森に向かう途中、台風15号に巻き込まれて転覆し、1,155人の人々が亡くなった。これはあのタイタニック号(1,513人)に次ぐ史上第二番目の海難事故である。この中にアメリカ人宣教師ディーン・リーパーの名があった。彼は札幌から夜行列車で函館に着いて直ぐに、次の訪問地仙台に向かうべく先を急いで洞爺丸に乗船。遭難の時「乗客が叫び泣いている最中、彼は“鎮まるように”と呼びかけ、女性、子どもに手を貸して救命具をつけているのを見たのが最後だった」と生還者のドナルド・オース宣教師は語っている。また当時の新聞は「北海に散った外人宣教師『救命具は女子供に一使徒にふさわしい最期』」の記事の中で、33歳の若さで6歳を頭に幼い3児と妊娠中のミッジ夫人を遺したまま、伝道の途中で北海に散ったディーン・リーパーの業績を讃えた上で、ミッジ夫人の言葉として「子供達が大きくなったら、日本に送り、父の志を継がせませう」と帰米の飛行機で泣き崩れたことを報道している。

(1954.10.9付日本経済新聞)

それから半世紀、2007年外国人初の広島平和文化センター理事長として、スティーブン・リーパー氏が任命された。被爆体験を語り継ぐため、米国50州101都市で「原爆展」を開催して、「人類の未来への警鐘」としてアメリカ人に受け入れられている。核のない世界への道筋を示す「ヒロシマ・ナガサキ議定書」を2008年に発表。2020年までに核兵器廃絶を目指す活動を続けている。この大きな流れがオバマ大統領のプラハでの核兵器廃絶の演説を引き出したと言っても過言ではない。スティーブ氏は母国の「戦争文化」に厳しい目を向け、日本からの「平和文化」の構築に情熱を燃やしている。「自己を犠牲にしても、人のため世界のために何かをする方が大事だ」という教えは、私達家族のなかに残っている」と語っている。このスティーブン・リーパー氏こそ、あの日北大学Y食堂で会食したディーン・リーパー氏の長男、その人だった。

ワイズ文庫蔵 東京目黒クラブ:2010年4月例会卓話より引用



全国の学生YMCA活動に尽力したディーン・リーパー氏（上）1954年の青函連絡船洞爺丸海難事故により召天。息子のスティーブン・リーパー氏（下）は、広島平和文化センター理事長を経て、広島YMCA常議員を歴任後、2023年11月に谷本清平和賞を受賞している。



1950年11月 学生Y M C A中国部会の記念写真。指導の一環で広島（宮島）を訪れたディーン・リーパー氏（前列中央）背景には1950年9月のギニア台風により破損した宮島の大鳥居の修復工事が映っている。



ディーン・リーパー氏 告別式 左から3人目、第4代総主事・相原和光 左から4人目、初代総主事 井口保男



2020 年日本 Y M C A キャンプ 100 周年を迎え

それは 1950 年から始まった。広島のカンパの歴史は 70 年以上。

広島青年

昭和 29 年 7 月 10 日

YMCA ニュース 附録

広島青年

昭和廿九年七月十日発行
毎月一、四、七、十、十三、十六、十九、廿二、廿五、廿八、三十一日発行
編集 三浦 邦太郎
発行 三浦 邦太郎
発行所 日本基督教青年会同盟
東京千代田区麹町一ノ二

今月の警句
神は自らの
脚心を示し給えり
(メソッド)

キャンプ村山白浦(宮)に設営

七月二十八日から

今年度、本会では、山崎村山白浦(宮)にキャンプ場を設営し、七月二十八日から八月一日まで、五日間のキャンプ活動を行う。このキャンプは、山崎村山白浦(宮)に設営し、七月二十八日から八月一日まで、五日間のキャンプ活動を行う。このキャンプは、山崎村山白浦(宮)に設営し、七月二十八日から八月一日まで、五日間のキャンプ活動を行う。



1954年 宮島山白浦にキャンプサイトを整備、1960年代は山白浦を中心としたキャンプを展開した。教育事業が発展していく中で、少年部では進学教育だけではなく、学習とキャンプの要素を兼ね備えた、自然の中での教育効果を高めたコンビネーションの新しいプログラムが1970年代に誕生した。中高生を対象にしたグリーンキャンパスと小学生を対象としたサマーファンプログラムである。



1968 年 予備校生の夏期合宿キャンプ



1976 年 芸北町に雲月山自然キャンプ場を開設



現在もシーズンにあわせ、野外教育を展開している



1973 年 学習とキャンプの少年部グリーンキャンパス



1977 年 小学生対象のサマーファン



2018 年 西日本豪雨復興支援 リフレッシュキャンプ

被爆～自分との投影・YMCAとの出会い



広島県原爆被害者団体
協議会 理事長
佐久間 邦彦

私のYMCAとの出会いは、中学生の時でした。爆心地から生死を分ける半径2.3～2.5kmの地点の実家で生後9か月で被爆、爆風によって壁が崩れ、窓ガラスが飛散し、私も顔に傷を負い、黒い雨にも打たれました。かろうじて全壊を免れた実家を修理し、幼少期を過ごしました。被爆後10年、小学校5年の時、原因不明の体調不良に苦しみました。その翌年、佐々木サダコさんが急性白血病で他界し、その後、広島YMCAでは原爆の子の像建立運動が始まります。佐々木

さんのことが自分の姿と重なり、中学生から高校生になるまで、この建立運動に参加するようになりました。

当時広島YMCAには、少年部という部署があり、高校生になって入会。高校時代、学校が終わったら放課後は、毎日YMCAで色々なサークル活動に参加し、コーラスをやったり、新聞を作ったり、学習補充の講座に参加したり、冬にはクリスマス会や募金活動等も行ないました。学校よりもYMCAで育ててもらったという思いです。

.....そこで夏に宮島キャンプに出会うこととなるのです。

宮島のキャンプは、自由のすばらしさを教えてくれた。

YMCAでの毎日は、多くの友人を作ってくれました。当時、広島市内の多くの高校から生徒がYMCAに参加しておりましたが、どんな生徒であっても分け隔てなく公平に接してくれました。YMCAの自由で大きな雰囲気が自分に合っていて、心許せる居場所であったように思います。夏になり、宮島でのキャンプの話聞き「みんなでいこうやー」ということになって、ほとんどの友人が参加するようになりました。

1954年から、宮島・山白浦のキャンプ場は、夏の期間だけ特設キャンプサイトを設営して運営されていたようです。当時キャンプサイトのある宮島・山白浦へは、正規の公共交通はなく、米軍の上陸用舟艇で砂浜に乗りつけるという、かなりワイルドな行き方でした。浜の奥まったところに大きなテントがあり、そこをベースに色々な活動を行いました。海水浴をしたり、クラフトを作ったり、色々なことを体験しましたが、中でもキャンプファイヤーでの仲間との語らいが自分の中では大きな思い出になっています。

1950年代後半から1960年代前半にかけて、広島にはまだまだ原爆被害の傷跡も多く、親の世代は貧しく、必死に働かなくてはなりません。その中であって、YMCAでの若者の活動は、新しい時代をむかえるための自由で大きな夢に満ちた活動でした。被爆者という健康に不安を抱えながらも、何気ない会話をとおして将来の夢を語り合った友人との時間は、私にとってかけがえのない時間であったように思います。自由の素晴らしさや平和の尊さを実感できる日々でした。

YMCAが人生を変えるきっかけになった。

高校を卒業し、一旦大学に進学しましたが、このまま広島で埋もれてしまっているのか？もっと自分にはやってみたいことがあるのではないか？被爆者としてこのまま広島で生きていけるのか？と思いはじめるようになりました。その時、日本に舞い込んできたのが「東京オリンピック」でした。東京への憧れとオリンピックに関わりたという思いは日に日に増していくとともに、その裏には被爆者として背負った十字架から解放され、誰も知らない場所で人生をチャレンジし

たい、という思いがあったのだと思います。大学を中退して、東京オリンピックでホテルが新設されていくなか、東京YMCAの国際ホテル学校（現東京YMCA国際ホテル専門学校）に進学することに決めました。広島YMCAの宮島キャンプで夢を語り合った仲間たちも背中を後押ししてくれました。東京YMCAの国際ホテル学校においても東山荘・山中湖キャンプ場などにも行かせていただき、新しい仲間たちと多くの思い出を作ることができました。



国立競技場 聖火台前にて

1964年、国際ホテル学校では、プレスセンターのレストランサービスを体験させていただき、休日には国立競技場や代々木オリンピックセンターの体育館なども行かせてもらいました。卒業後は、ヒルトンホテルに就職し、ビートルズの宿泊などの貴重な体験もさせてもらいました。まさにYMCAとともに青春を過ごしたと言っても過言ではなかったと思っています。人生をサポートしてもらいました。

平和・自由の尊さを教えてくれたキャンプ。
だから平和のために生きる。

私は現在、広島県にある原爆被害者団体協議会（以後、被団協）の理事長をさせていただいています。被団協との関わりは、退職してからの2006年から始まりました。被爆者という十字架を背負っていることは、私の人生の転換期の中で多くの試練を与えられました。東京に出るときはその重荷を下ろしたい一心で、新しい世界に飛び出したことも事実ですが、やはり、最後は広島の間人は広島に根ざして生きていくべきであるという思いもあり、被団協の活動を続けています。その根幹にあるのは、YMCAで取り組んだ佐々木禎子さんの原爆の子の像の建立活動や少年部の宮島キャンプで経験することができた、戦後の自由で大きな平和な世界を守りたいということもあるかもしれません。

キャンプファイヤーの炎をみつめながら、仲間と夢を語り合った時間やそのことで培われた心の豊かさ、自分以外の人達を思いやれる気持ちを持つこと等、人間にとって大切なことをキャンプは教えてくれます。また、私の場合、東京に旅立つ際には、キャンプ生活を通して結ばれた友達との絆が自分の人生もサポートしてくれました。

まさに、そういった人と人とのつながりによって平和な世界が作られていくのだと思います。

YMCAのキャンプ100周年を迎え、その歴史の一部として、少年期に関われたことをうれしく思いますし、現在の平和活動に関われる基礎を作っていただいたことに感謝しています。



右端が当時高校生の佐久間氏



1960年代 ニューエイジ・新しい時代

1963年7月 第3回“Let's Get Together”広島-ホノルル高校生親善使節団。

1959年に広島市とホノルル市の姉妹都市縁組がスタート。ホノルル市長が来広したことをきっかけに、広島YMCAとホノルルYMCAとの交流プログラムが1961年に開始された。横浜より船便で、第1回交流団として7名のメンバーと1名のスタッフが派遣された。翌年にはホノルルYMCAよりメンバー12名とスタッフ1名が広島を訪問した。この広島・ホノルル“Let's Get together”は、2019年で58回目を迎え、相互派遣の延べ人数は600名を越えて続けている。また、1985年には、日本・台湾・韓国YMCAの高校生ユースキャンプがスタートし（その後、マレーシア・シンガポールが加わる）、1989年からハノーバーYMCAとのユースを中心とする交換プログラムも始まっている。



“Let's Get Together”は、1960年のホノルル市長の広島YMCA訪問が交流のきっかけとなった。後ろ姿は当時の浜井広島市長。



1961年 第1回訪問は、横浜港から船で出港した。当時、海外渡航は珍しく一大イベントであったため見送りは盛大であった。



1962年4月 青年部の英語クラスが、「英語学院」として独立。語学事業としての本格的な英語教育が始まった。



1959年から始まった青年英会話の海外派遣生。1966年のアメリカケンタッキー州レイビル大学校内で憩う広島YMCA派遣の青年達



1968年 戦後始まった社交ダンスクラブが、教室として発展、戦後の新しいダンス文化を広める役割と青年たちの社交の場としての役割を担った。



1967年 デザインアートアカデミーが開設。後の児童美術教室や成人絵画クラス、芸大美大学進学コースと専門細分化し発展した。



1968年 八丁堀に新しい建物ユースセンターが落成
待望の新会館建築の2年後、会館増築工事が68年3月に完了した。献堂式には、北村徳太郎をはじめ、各YMCA、同盟、市内教会牧師、会員、講師、経済界等の出席を得て極めて意義深い式典が挙行された。会館の増築は事業の発展、多くのユース育成に大いに貢献した。



1969年 新キャンプ地として湯来町にみのち学荘が開所
5月13日地元の厚意により、廃校になった山あいの小学校跡地を譲り受け、研修センターとして、再出発することになった。地元の水内(みのち)の地名を取り「みのち学荘」と命名。内部を改装して、4部屋の宿泊室と3つの研修室をもつ施設に改装した。



1969年夏。1950年代初頭から行なわれた宮島山白浦キャンプサイトから湯来町にある「みのち学荘」（現ユカリス湯来）に活動の拠点を移転。少年部のキャンプ・体育部の野外・国際事業部のリーダー等、多くのボランティアリーダーが育っていった。

1960年代 広島YMCAが残したもの

1958年の原爆の子の像建立後、YMCAに事務局が置かれた折鶴の会と子ども達の活動の中心は、原爆病院に入院中の被爆者の慰問や、原爆の子の像の清掃を行うことでした。その後、活動の範囲を、被爆によって貧困状態にある人々が多数住む地域での奉仕活動や韓国人被爆者への慰問などに拡大していきました。

しかし、なかなか復興や救済が進まない現状に彼らは心を痛めていました。当時、広島市の浜井市長を含む行政は、原爆の廃墟を残すなどという前例のない取り組みを行う必要性は感じておらず、産業奨励館（原爆ドーム）については「自然に壊れるまで放置する方針」をとっていました。

しかし、原水爆禁止日本協議会の結成による反戦・反核運動の広がりや広島県原爆被害者団体協議会の結成による被爆者援護法制定への大きな動きは、原爆ドーム存廃についても大きな議論を呼ぶこととなります。

守られた原爆ドーム

1960(昭和35)年8月6日 平和記念公園にて「折鶴の会」の子ども達は、「こわれかかって、取り払われようとしている原爆ドームを、私たちの手で守りましょう」と原爆ドーム保存運動を始めます。

そんな中、折鶴の会の子ども達は佐々木禎子さん同様、原爆症で亡くなった一人の少女の日記に出会います。彼女の名は楳山(かじやま)ヒロ子さん。彼女は病床の日記の中で「あの痛々しい産業奨励館(原爆ドーム)だけが、いつまでも、恐るべき原爆を世に訴えてくれるのだらう」と書き残します。「原爆ドームを残すことで、後世に悲惨な事実を伝えることができるのだ」という彼女の願いに寄り添うかたちで、また、廃墟のまま放置され続ける原爆ドームを残すことが、自分たちが行っている被爆者救援の活動につながる事を信じ、1960年、折鶴の会は「こわれかかって、取り払われようとしている原爆ドームを、私たちの手で守りましょう」と、平和公園の原爆の子の像前で、ドーム修理費の募金と取りこわし反対の署名活動の「原爆ドーム保存運動」を開始します。



その活動を進める中、被爆者団体・反核団体からの原爆ドーム保存について広島市への強い要請や広島市議会での多くの議論を経て、1966年、ついに広島市議会が原爆ドーム永久保存を決議することとなりました。

翌年の1967年に第1回保存工事が開始されました。当時、工事を請け負ったのは清水建設でした。現場監督として白羽の矢が立ったのが、二口正次郎さんという方でした。ドリルを打つと振動でドームが崩れそうになるなど、多くの課題をクリアしながら二口さんはこの難しい工事をやり遂げたということです。二口さんは旧日本銀行の復旧工事や平和公園のレストハウスの復旧工事でも手掛けた方で清水建設を退かれた後、YMCAの専門学校の設計製図科の講師をされ、建築を志す多くの若者たちを指導していきました。

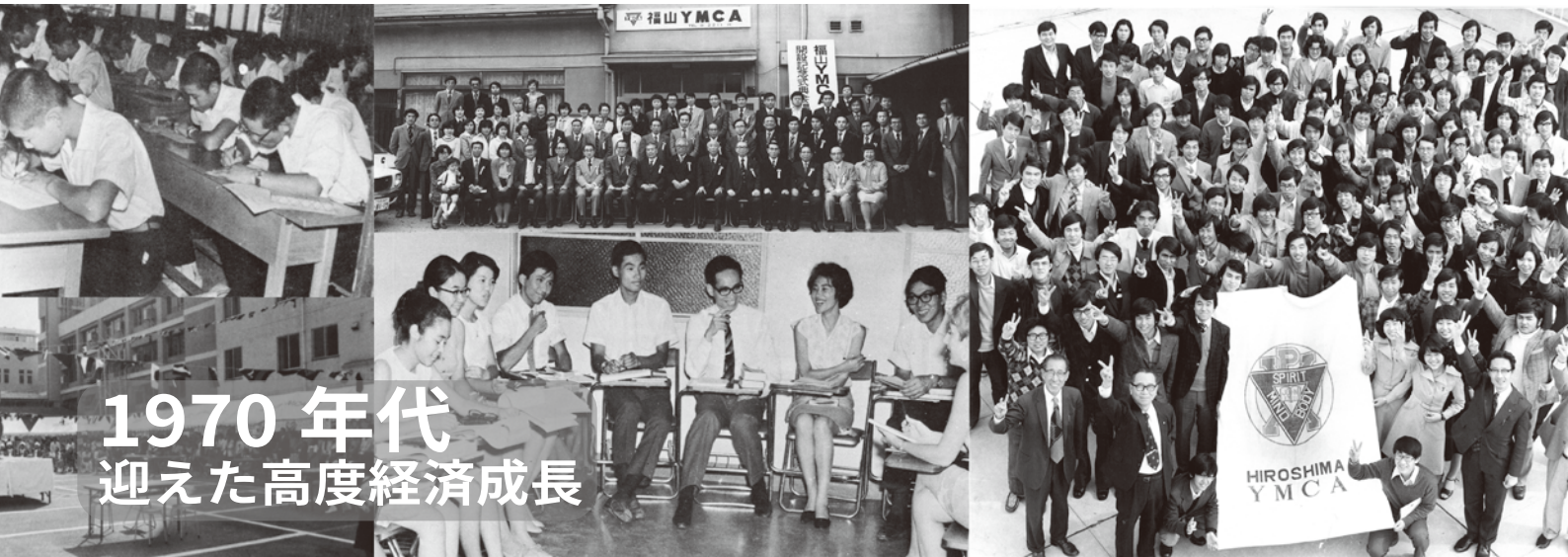
娘さんのとみろさんもYMCAの日本語学科や日本語教師養成講座で教鞭をとられた方でした。現在は、平和公園のレストハウスにある「明子さんのピアノ(被爆ピアノ)」の管理をしながら平和活動を行なうNPOの代表をされています。

2022年、その二口とみろさんより、お父様が行った原爆ドーム保存工事の貴重な写真の数々をYMCAに託したいというお申し出があり、多くの写真をご寄贈いただくこととなりました。折鶴の会から始まったドーム保存運動、その工事を行った二口正次郎先生や娘さんのとみろさんもYMCAで教鞭をとり、そのご縁で当時の貴重な写真の数々をYMCAにお譲りいただいたことは、後世に伝えていく使命があると感じています。

YMCAの一青年会員からの呼びかけで、原爆の子の像が生まれ、その後の原爆ドーム保存運動が、原爆ドームを守り、そして世界遺産へととなりました。現在、原爆の子の像があり、原爆ドームがあることで広島市は、「国際平和文化都市」として、世界に平和を発信し続ける街として、世界的にその中核を担っています。その歴史のスタートとなるきっかけにYMCAの子ども達がいたことや、それをつないできた名もない広島市民の力があることを私たちは忘れてはなりません。



1967年 第1回目保存工事の起工式に「折鶴の会」の子ども達が写っています。



1970年代 迎えた高度経済成長

1970年代 事業拡大の中、高校生の夏期講習、ビジネススクール、英語学院、大学進学予備校が隆盛し、体育事業や研修施設が開設された。

1950年代、教育事業は「広島青年高等学院」と名づけられ、大学受験科、英語科、英語会話科、事務学科、英文タイプ科、エスペラント科の授業が行われ、多くの青少年たちが明日への希望をもってプログラムに参加した。1970年代、大学進学予備校・ビジネススクール・英語学院と隆盛を迎える。また、ウエルネス事業の草分けとして体育事業が始まり、キャンプ・体操・スイミング・スキーなどの活動が多くの子ども達健康づくりに貢献した。高度経済成長の中、企業間競争も激しくなり、より高度な企業人育成のための研修施設の必要性が高まり、キャンプ場として活用していたみのち学荘を企業研修施設としてリニューアルしたのもこの時期である。



1970年11月21日 全国YMCA体育指導者研修会
東京YMCAから体育主事・林輝児（右端）が赴任したことにより、体育事業は一気に発展へと加速した。それに伴い、多くのユースリーダーが育っていった。



1970年8月 プールのなかったYMCAは、ユースホステルのプールで水泳教室を開催。スイミングスクールのさがけとなった。（写真上）
1971年8月 スイミング・キャンプとも、将来教員をめざす大学生が、リーダーとして多数参加し、指導者としての質を高めていった。



1976年 芸北町に雲月山自然キャンプ場を開設

国際協力のためのワークキャンプは、1974年のベトナムワークキャンプから始まった。1965年のベトナム戦争終結の要望書簡の送付活動から、日本国内でのベトナムでの平和を願う啓蒙活動の集大成として、現地でワークキャンプを行う活動に発展した。

◆高度経済成長期、新たな拠点と新たなプログラム



1952年多くの人々の善意によって八丁堀に建てられた広島YMCAの初めての会館は、1973年新館建設に伴ない撤去せざるをえなくなった。しかし、多くの人々の惜しむ声に歴史的な記念館として、後世に残すため 1974 年 3 月 10 日 旧本館がみのち学荘に移築。そこでは学習とキャンプを組み合わせた多くの新規プログラムが開設されていった。現在記念館は、ヴォーリスロッジとしてリニューアルされている。また、1978年3月30日には「みのち学荘」新館が落成された。



1973年 学習とキャンプの少年部グリーンキャンパス



1977年 小学生対象のサマーファン

◆カープ優勝パレードから生まれた広島の新しいフェスティバル



1977年5月3日 第1回フラワーフェスティバル

新しい市民の祭りとして、始まった「フラワーフェスティバル」に、オールYで参加した。Y M C A国際プラザを広島平和記念公園内に設置し、パレードに参加。(1977)。1978年度のフラワーフェスティバルには姉妹都市ホノルルから、Y M C A親善使節団を招き、両市の親善のかけ橋をはたした。1990年代初頭までこの活動は続いたが、一旦、見直しを行い、2010年代は、きんさいよさこいパレード・平和発信のブースを展開するようになった。

◆新たなエリアへの初めての拠点拡大



1978年4月23日 県内2番目の拠点として福山YMCAが発会 1980年に日本YMCA100周年記念会館として福山YMCA新館が建設された。

戦後、広島県内の各地に次々とY M C Aが誕生した。中でも呉・竹原は日本Y M C A同盟の加盟承認を受けたY M C Aであり、地域の青年を中心に活発な活動を展開していた。しかし、当時の社会現象的な動きであったこれらのY M C Aはその後その姿を消した。福山Y M C Aも青年達の運動で一度は設立されたものの成育までには至らなかった。福山の地に永年の会員たちの悲願が果たしたのは1978年のことであった。

10フィート運動は、日本で1980年（昭和55年）から開始された草の根運動の一つ。第二次世界大戦（太平洋戦争）での広島市・長崎市への原子爆弾投下直後に、アメリカの米国戦略爆撃調査団が両市で原爆記録フィルムを撮影したことから、このフィルムを日本が買い戻して記録映画を製作し、反核と反戦の世論作りに役立てるための運動として行なわれた。フィルムは全部で8万5千フィートあり、アメリカ国立公文書記録管理局などに保管されているこのフィルムを、市民1人1人からの3,000円ずつの募金により10フィートずつ買い取ることが名称の由来であり、広島YMCAは事務局の1つとして大きな役割を果たした。

1980年代 大衆から分衆へ パーソナルへの構造変革

1980年代は、18歳人口の減少を受け、総主事の林辰也は、予備校が中心の事業構造から専門学校と地域へのセンターの設置を行うことで事業構造の変革を図った。80年代初頭に広島と福山にビジネス専門学校、1989年に健康福祉専門学校、外語専門学校、90年代には相次いで、米子・尾道・岩国に福祉医療系専門学校の設置を行い、三原・五日市・呉・高陽・東広島・三次・安古市等にランチ・センターが設置された。また、新たに第4代総主事・相原和光の退任に伴い、広島YMCA国際平和研究所（相原が所長に就任）が開設され、10フィート運動や新たな国際交流プログラムの開発などがなされた。国際平和研究所は、後の公益財団法人広島YMCA国際コミュニティセンター（Global Community Center:GCC）に引き継がれていくこととなる。



第4代総主事 相原和光

1980年4月14日
専修学校福山YMCAビジネス専門学校として認可。広島県東部地区初の専門学校として認可。秘書・簿記・タフの3学科を設置。
1994年福山YMCAビジネス専門学校から、福山YMCA国際ビジネス専門学校に校名変更。2021年開校。



1981年12月26日
専修学校広島YMCAビジネス専門学校として認可。英文タイプライターなどの職業教育事業をもつ。1978年にビジネススクールが開校。専門学校教育の充実をめざし1981年に3号館が完成。同月26日に専修学校として認可された。



1989年4月1日
広島YMCA健康福祉専門学校開校。健康ブームや高齢化社会に対応すべく、社会体育・介護福祉の2学科を設置。
2012年に介護福祉士の学科を岩国へ、社会体育科を国際ビジネス専門学校に統合した。



1989年外語専門学校が開校し、留学生の増加に伴い1994年にビジネス専門学校に統合され、校名が、広島YMCA国際ビジネス専門学校（現広島YMCA専門学校）となる。



1980年代より、特長ある予備校として、広島・福山に芸術・美術大学受験のための芸美大受験予備校を設置しており、多くの学生が実技講習で受験に備えている。



1988年
鶴田マリを園長とする英語幼児園を設置。2003年にYIICK (YMCA International Kindergarten) を開園。



1980 年代～ 90 年代にかけての ブランチセンター展開



現在、地域教育センターはその使命を終え、青少年の教育プログラムは東広島・広島の2拠点に集約されている。

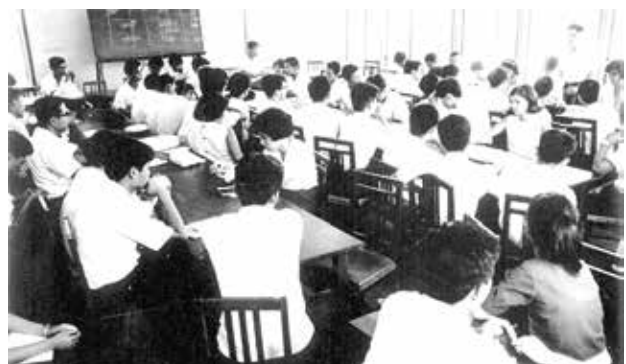
広島 Y M C A 国際平和研究所の活動



1985 年 8 月 日本・台湾・韓国ユースキャンプスタート。その後、マレーシア・シンガポールが加わり、5ヶ国の国際キャンプとなった。



1989 年から始まったハノーバー Y M C A との交流は、現在では、日本・ドイツ・アメリカ・スペイン・ロシアの若者が交流する大きな国際交流キャンプに成長した。



1978 年の「第 1 回平和を考える高校生の集い」を開催し、1980 年に「平和」ということについて深く考え、国内外の若者の平和教育と国際交流を図ることを目的に「ユースピースセミナー」と名称を変更。



1993 年 10 月 24 日～ 23 日 創立 55 周年を記念して行なわれたレーナマリア・チャリティーコンサート



1990年代 社会変化への対応

フィリピンワークキャンプは1992年から開始。当初学生を中心としたワークが主体であったがワイズメンズクラブの歯科治療ボランティア等が加わり、支援の輪が広がった。

1994年3月のフィリピンワークキャンプより

高齢者社会に向けての医療・福祉系専門学校の開校期 健康・福祉事業も拡大



1998年4月1日
専修学校岩国YMCA国際医療福祉専門学校開校
山口県岩国市に設置されたYMCA初の保健看護学科を備えた看護・医療・福祉のスペシャリストを養成する専門学校。保健看護学科は4年制で高度医療専門士の資格を有することができる。



1994年4月1日
専修学校YMCA米子医療福祉専門学校開校
鳥取県米子市の医療福祉系専門学校として、米子市の全面協力のもと開校。理学療法士・作業療法士・介護福祉士の学科を有し、チーム医療が学べる学校として運営されている。



1997年4月1日
専修学校尾道YMCA福祉専門学校開校
東部地区初の福祉系専門学校として尾道ふくしむらの中に設立された。2010年に他社会福祉法人へ移管し、現在は尾道福祉専門学校として運営されている。



1993年4月1日「ゆうあいホーム」開所。
(社会福祉法人広島友愛福祉会)
1995年4月1日 養護老人ホーム「ゆうあいの里」の業務委託を大竹市より受ける。



1995年10月14日 第1回広島大会
YMCAインターナショナル・チャリティーランは、障がいのある子ども達もそうでない子ども達も共に幸せに生きている社会をめざし、広島では1995年に第1回目が開催された。



1996年4月1日 訪問看護ステーション「ピース」を設置 2000年4月1日 居宅介護支援事業所「ピース」を開設。2011年3月には、岩手県一関市に震災支援の看護師の派遣を行った。



1998年4月1日 青少年教育センター開設
従来の大学予備校・進学教育・芸大美大受験科等を統合して開設された



1998年2月16日 “Let's Get Together”をはじめとする国際交流に対し、広島県文化勲章を受章”中央の藤田雄山県知事・右隣がYMCA。



1986年4月 ウエルネススポーツセンター開設
1990年11月東広島にもスポーツ事業を開設。これで広島、福山、東広島に本格的なスポーツクラブが開設され、健康事業が発展した。



90年代・2000年代に起きた紛争や災害の復興支援活動

阪神淡路大震災復興支援



1995年11月17日5時46分、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生した。特に震源に近い神戸市市街地は被害甚大で、犠牲者は6,434人に達し、戦後に発生した自然災害全体でも、東日本大震災が発生するまでは最悪のものであった。



阪神淡路大震災救援物資搬送



1995年2月3日 救援物資を載せた神戸へのトラック発災以降、広島YMCAには市民から多くの支援物資が寄せられた、募金活動と平行し、神戸YMCAへの救援物資の搬送を行った。

9.11 世界同時多発テロ発生



2001年の9.11世界同時テロから派生したアフガニスタン紛争で、多くのアフガニスタン人が難民生活を送ることとなった。ラホールYMCAと協力し、広島YMCAは日本YMCA同盟と協働し、小学校の建設と運営をサポートすることとなった。



ラホールマンゾールパーク小学校建設



2002年の現地調査から広島Yを中心とする活動を展開。パキスタンラホール市において、マンゾールパーク小学校を建設。難民の子ども達に「読み・書き・計算」等の教育支援を2017年まで行った。

3.11 東日本大震災復興支援



2011年6月広島からスタッフを派遣し、宮城県の状況を調査。ボランティアセンター運営をサポートしつつ、今後の支援計画を練った。宮城県仙台市及び岩手県宮古市を中心とした災害復興支援ボランティアワークキャンプの実施を確定した。

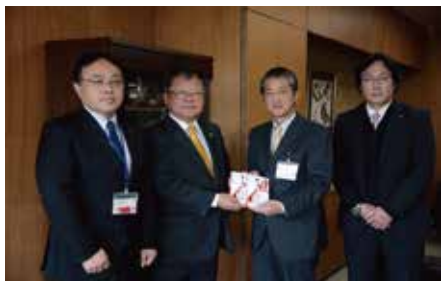


東北ボランティアワークキャンプ



2011年夏。8月22日～26日にかけて宮城県仙台市七ヶ浜町で行われたワークキャンプの様様。翌年からこのワークキャンプは、支援地を岩手県宮古市に移し、2016年まで続けられた。

8.20 広島市北部豪雨災害



2014年12月教育委員会義捐金贈呈
8月20日に発生した広島市北部豪雨災害において、広島YMCAはいち早くボランティアセンターの運営に関わり、約3か月の間、被災地復興支援活動を行った。全国YMCAからの義捐金は、12月に広島市教育委員会や被災地小学校（八木・可部）の防災教育のための備品購入に寄附された。

熊本地震災害復興支援



2016年4月～10月 熊本地震復興支援活動
4月15日・16日と熊本でM7を超える地震が発生し、広島YMCAはいち早くスタッフを現地に派遣。益城町総合体育館の避難所運営を担った。約半年に及ぶ人的派遣、募金活動を展開し、夏休みの期間には広島の大学生や専門学校を中心としたボランティアワークキャンプを実施した。

西日本豪雨災害復興支援



2018年12月 被災地復興支援リフレッシュキャンプ
この年7月20日に発生した西日本豪雨災害において、広島YMCAはボランティアセンターに看護師や運営スタッフ、全国のボランティアの派遣を行った。被災地が落ち着いた秋口からは、子ども達を対象にしたリフレッシュキャンプを翌年の1月まで計4本実施した。



2010年代 公益財団としての新たな取り組み

2010年4月広島YMCAは、新たに上久保昭二を総主事として任命した。上久保がまず最初に唱えたことは、「原点回帰」ということである。先達たちが作ってきた広島YMCAの原点とはいったい何なのか？そこを見極める事で、広島YMCAが今後80周年に向かう方向を見出そうとしている。2010年から2013年にかけて、事業体としての経営的な基盤を固めるとともに、まず、YMCAの原点でもある会員活動の見直しを行うため、国際コミュニティーセンター機能の強化を行なった。

公益財団法人への移行を果たすとともに、維持会員数の増強とYMCA活動の充実を図ることで、さらに公益性の高い、社会に有益な団体であることを知らしめることに努めている。また、関係団体(広島女学院大学・YWCA・ユニセフ・他NPO・NGO)との協力体制を強化するとともに、創立75周年を機に、15の姉妹提携YMCAとの関係を再強化するため、グローバルリレーションシップの共同宣言を行い、平和・国際・ユース育成活動の充実をめざしている。



2010年4月 広島YMCA保育園リニューアルオープン 1953年開園の保育園が定員増に伴う施設のリニューアルと時代に合わせた一時保育と休日保育を開始した。都心の中心地にある保育園として多くの共働きの家庭をサポートする。



2011年4月9日 広島女学院大学と「協力・交流協定調印式」を行い、ボランティア・国際プログラム等、包括的に協力体制を組み、連携することを確認した。フラワーフェスティバル・募金など合同プログラムも実施。



2012年7月16日 マイケルヒングソン氏 講演会開催 9.11世界同時多発テロ・国際貿易センターから盲導犬とともに奇跡の生還を果たした本人より、命・平和の大切さを学んだ。ラホールYMCA(パキスタン)のアフガン難民小学校支援と連動した活動として開催。



2016年4月15日・16日と熊本でM7を超える地震が発生し、広島YMCAは、熊本地震緊急支援活動として、いち早くスタッフを現地に派遣。益城町総合体育館の避難所運営を担い、4月～10月にかけ、約半年に及ぶ人的派遣を行った。

広島YMCA総主事就退任式



広島YMCA総主事就退任式での殿納総主事の就任の挨拶。

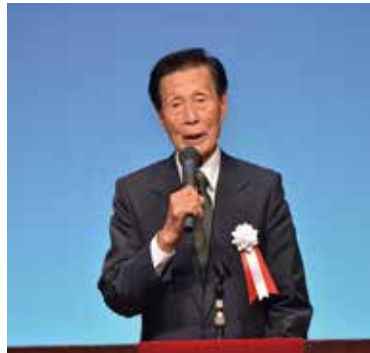
2018年5月24日 広島YMCA総主事就退任式が行われ、8年総主事を務めた上久保昭二から、新総主事・殿納隆義にバトンが受け渡された。新総主事・殿納隆義は、YMCAの財政基盤の安定の確立と並行し、公益的活動のさらなる発展のため、地域密着型の活動を推奨した。イベント的な活動の発信ではなく、YMCAが取り組まなくてはならない社会的な課題（貧困や差別・会員組織としての公益性の高い活動）に取り組むことで、YMCAの社会的信頼度の向上に努めることを推奨し、現在活動中である。

総主事就退任式のその半年後、2018年10月25日に広島YMCAは創立80周年を迎えることとなった。

2018年10月25日 広島YMCA創立80周年記念行事



100周年に向けて新たなチャレンジを



広島YMCAの黒瀬理事長挨拶



日本YMCA同盟の神崎総主事挨拶



広島YMCAチャプレン澤村雅史牧師の創立記念礼拝



殿納総主事リードのもと、全員でYMCAの使命朗読



広島YMCA創立80周年記念礼拝

日 時 2018年10月25日(木)
 時 間 午後6時00分～7時00分
 場 所 広島YMCA国際文化ホール
 司 会 榎本 幸美
 礼 拝 澤村 雅史
 伴 奏 石原 志保
 式 次 第
 前 奏
 招 詞 ローマの信徒への手紙12章12節
 讃 美 歌 21-475番「あめなるよろこび」
 聖 書 イザヤ書 40章1～8節
 メッセージ 『広島YMCAの使命』 澤村 雅史
 祈 禱
 讃 美 歌 「キリストの平和」
 交 読 広島YMCAの使命・主の祈り
 頌栄讃美歌 541番「父、み子、みたまの」
 祝 禱 澤村 雅史
 後 奏

招詞 ローマの信徒への手紙12章12節

希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。

聖書 イザヤ書 40章1～8節

- 1 慰めよ、わたしの民を慰めよと、あなたたちの神は言われる。
- 2 エルサレムの心に語りかけ、彼女に呼びかけよ。
苦役の時は今や満ち、彼女の咎は償われた、と。
罪のすべてに倍する報いを主の御手から受けた、と。
- 3 呼びかける声がある。主のために、荒れ野に道を備え、
わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ。
- 4 谷はすべて身を起こし、山と丘は身を低くせよ。
険しい道は平らに、狭い道は広い谷となれ。
- 5 主の栄光がこうして現れるのを、肉なる者は共に見る。
主の口がこう宣言される。
- 6 呼びかけよ、と声は言う。わたしは言う、何と呼びかけたら
よいのか、と。肉なる者は皆、草に等しい。永らえても、
すべては野の花のようなもの。
- 7 草は枯れ、花はしぼむ。主の風が吹きつけたのだ。
この民は草に等しい。
- 8 草は枯れ、花はしぼむが、わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ。



2018-2023 災害・紛争・コロナ禍をのりこえて

2019年11月 サロー節子さんを迎えるの広島ユース交流会

2018年から2023年の期間は、まさに激動の変化があった5年間でもあった。災害から始まったこの期間は、西日本や熊本を直撃した豪雨災害から始まり、2023年にはハワイにおける壊滅的な大火災も発生した。2020年の年明けからは、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、学校の授業方法、イベント実施のやり方、周囲の生活の方法や仕事のやり方を一変させた。その中で、仕事を失う、収入が激減し経済的に困窮する人たちも多く、こども食堂・フードバンクの開設が激増した期間でもあった。と同時にロシアによるウクライナ侵攻が開始され、多くの避難者がこの広島においても受け入れられ、YMCAもその避難者の支援活動を行ってきた期間であった。

◆気候変動による豪雨災害が、近年多発傾向に



2018年7月に発災した西日本豪雨災害において、広島YMCAは緊急支援募金・緊急物資の提供・ボランティアセンター運営のための人的支援を行いました。また、全国のYMCAからの派遣ボランティアのプラットフォームとして、被災地支援活動を行いました。



2020年7月に発災した熊本豪雨災害において、球磨村の旧多良木高校をピースポート災害支援センターと熊本YMCAが避難所として運営。広島YMCAからは緊急支援募金・緊急物資の提供・避難所運営のための人的支援を行いました。

◆コロナ禍における新たな平和活動の在り方を探る



2020年8月4日 YMCA国際リーダーが企画した平和イベント「ベアトリスに聞いてみよう」で、2017年ノーベル平和賞を受賞したICAN事務局長のベアトリスフィン氏と全国のYMCAユースがオンラインでつながり、平和ミーティングを実施しました。



2022年7月29日 YMCA国際リーダーが企画したオンラインで開催した平和イベント「ユース平和ミーティング」では、韓国人被爆者、イ・ジョングン氏を迎えた被爆証言や在日本韓国YMCAの田附氏から、日韓の歴史や日本の戦争加害についての学びを深めました。

◆コロナ禍における新たな支援の方法を模索・実施



2019年9月/11月 グレタトゥンベリーに触発された若者を中心に気候変動ストライキや市内繁華街を行進する気候変動マーチが、常議員のスティーブン・リーパー氏の主催で平和公園にて実施され、YMC Aスタッフやリーダー達も実施に協力を行いました。



2020年5月 コロナ禍となりアルバイトもできず、収入が激減し、異国の地で不安を抱える留学生に対して、インターネットの寄附サイトを活用した新しい支援の方法（Amazonみんなで応援プロジェクト）を実施し、多くの食材を届ける活動を行いました。



2020年12月 YMCA専門学校の卒業生が代表を務めるひとり親家庭応援フードバンク「OYATOKO」へ、インターネットの寄附サイトを活用して食材配布のために資材支援を開始。多くの方に支えられながらフードロス削減や経済的格差の課題などに取り組みはじめました。



2021年10月 コロナ禍において希薄となった地域コミュニティの再生を目的として、教会・YMCA・広島女学院大学・地域ボランティアが協力し、「るてる食堂クレヨン」を開設。多くの企業もまきこみフードロス解消のための食材の提供も積極的に取り組んでいます。



2021年12月 広島YMCAチャプレンの立野泰博牧師の司式により、奏楽に三輪真理さん（ピアノ）と吉田優子さん（二胡）を迎えての音楽礼拝を行いました。コロナかにおいては初めてのYOU TUBE配信に取り組み、以降礼拝はYOU TUBE配信を行なうようになりました。



2021年12月 YMCAが全国的に展開しているアマゾン「みんなでサンタクロース プロジェクト」で寄付をいただいたお菓子やマスコット人形を教会が主催する子ども食堂に来てくれた子ども達にYMCAのユースリーダーがサンタクロースになってプレゼントしました。



2021年12月 八丁堀交差点・福屋百貨店前にて街頭募金活動を行いました。毎年、市内数か所で行っている街頭募金をコロナ禍の対策を行い実施しました。募金をしていただく方の安全を考え、募金箱を持たず、小机の上に置く方法に変更し、有志のスタッフのみで市内1か所街頭募金活動を実施いたしました。



2021年12月 新しいクリスマスの在り方として支援が必要な場所にクリスマスリースを届ける活動を開始し、子ども達が作ってくれたリースと全国から送られてきたイルミネーションを火災被害のあったエキニシ商店街に届けました。

広島YMCA創立 85 周年の 2023 年トピックス② ガザ紛争緊急支援

2023 年 10 月 7 日、パレスチナのイスラム組織ハマスが、前例のない規模の攻撃をイスラエルに対して開始した。何百人もの戦闘員が、パレスチナ自治区ガザに近いイスラエル領内に侵入し、これまでに少なくとも 1300 人の死亡が確認された。200 人近い兵士や民間人が拉致され、人質にされてガザ地区へ連行された。この攻撃を受けてイスラエル軍はガザ空爆を開始。イスラエルはガザ地区を完全封鎖し、食料や水やエネルギーなど生活必需品の供給を遮断。イスラエル軍は 3 万人以上の予備役を招集し、大部隊をガザの地上戦に投入。一般人を巻き込んだ虐殺ともいわれる攻撃を続けている。日本 YMCA 同盟は、難民を救済するための緊急支援募金を開始。広島 YMCA は、広島市内の NPO と協力し、停戦に向けての緊急アピールを原爆ドーム前で展開した。



原爆ドーム前にキャンドルを並べ、ガザでの即時停戦を訴えるメッセージを発信する市民たち (撮影・山下悟史)

**停戦訴える灯火
ヒロシマの思い**

原爆ドーム前で集会

イスラエル軍とイスラム組織ハマスとの衝突から1カ月余りが過ぎた11日、広島市中区の原爆ドーム前で停戦を訴える市民集會が開かれた。戦後が続くパレスチナ自治区ガザに向けて「ジェノサイド(大量殺戮)を止めよ」とキャンドルで英語のメッセージを描き、被爆地広島への思いを発信した。

参加者が約1千本のキャンドルに点火し「STOP GENOCIDE IN GAZA」の文字を浮かび上がらせた。呼びかけ人の一人、広島市立大の田浪亜央江准教授は「ガザの230万人の命を危険にさらす絶望的な暴力が起きている。キャンドルを大きな声にして広げる一歩にしたい」と力を込めた。

集會は市民有志でつくる「ストップジェノサイド・ヒロシマ」が主催し、約500人が参加した。(平田智士)

パレスチナ緊急支援募金 2023

募金期間：2024 年 2 月 29 日

2023年10月7日以降、イスラエルとパレスチナではすでに何千人もの命が奪われています。イスラエルとパレスチナには3つのYMCAがあり、以前から紛争下にあるこの地域の平和を願い活動をしてきました。今回の武力衝突でYMCAの活動家にも犠牲が出ています。世界YMCAの呼びかけで10月19日に緊急オンラインミーティングがはじけられました。そこではパレスチナで活動しているガザYMCA、東エルサレムYMCA、エルサレム・インターナショナルYMCAの3つのYMCAより緊迫の状況の報告と、東エルサレムYMCAからは緊急会議の呼びかけがあり、そして10月24日には世界YMCA総会事務局がイス・サンダーソンより緊急支援アピールが発表されました。

広島YMCAではこれらの呼びかけに対し、パレスチナ緊急支援募金を行います。「私たちに戦争を止めさせる力はない。しかし平和を祈ることはできる。私たちのために、そしてすべての国のために祈ってください。暴力では何も解決せず、むしろエスカレートさせるばかりで、和解を阻害していく。空爆のステージに収束することが唯一の解決策です。」と国際YMCAの代表は語っています。パレスチナの地に1日も早い平和が訪れること、多くの人がこの思いが叶えられることを祈り、みなさまの協力をお願い申し上げます。

・世界YMCA公式ロシア語メッセージ
<https://www.ymca.jp/information/2023-11-01.html>

◆パレスチナ緊急支援募金を国際協力募金の一環として展開いたします。

募金促進：パレスチナ自治区内で活動しているYMCAの活動への支援
募金方法：広島YMCAの窓口へお持ちいただくか、振り込みをお願いいたします。

- 一口募金
一口募金用の封筒に入れて、YMCA窓口にお持ちください。
(一口1,000円以上何口でも結構です。)
- 振込
銀行：もみじ銀行 広島中央支店 普通1020422
名義：公益財団法人 広島YMCA 国際協力募金
（ゼイ）ヒロシマツイテムシーエイ コウサイキョウキン
※もしくは同封のゆうちょ銀行振込用紙をご活用ください。

公益財団法人 広島YMCA 〒730-8523 広島市中区八丁町7-11 Tel 082-229-1131 Fax 082-229-1088



2023年11月11日(土)「ガザの状況を前に誰であっても殺さないで」と訴えるキャンドルアピールを広島YMCAも主催者の一つとして開催しました。当日は夕方から500名の市民が原爆ドーム前にキャンドルをもって集まり、祈りの時間を共有しました。

広島YMCAの竹井総主事も呼びかけ人の一人として、ガザ侵攻の中止を強くアピールさせてもらいました。最後に原爆ドーム前で、「STOP GENOCIDE IN GAZA」と参加者全員でコールを行い、紛争の終結をアピールしました。

広島YMCA創立 85 周年記念行事

10月25日(水)快晴のもと、広島YMCA創立85周年記念事業が開催され、中央、東広島、岩国、米子から、約120名のスタッフが一同に会しました。午前中は、創立記念礼拝を行い、日本福音ルーテル広島教会牧師の立野泰博チャプレンの司式により「向こう岸に渡ろう」というとても分かりやすく心に響くメッセージとともに創立85周年を祝う祈りの時を持つことができました。続いて、竹井総主事からの「みんなが繋がり、広島YMCAは必ず良くなります」という力強い発信も全職員の心に響くものとなりました。午後からはグリーンアリーナにおいて、今まで話したことがないスタッフに出会うことを目的とした交流のためのレクリエーションを行いました。チーム戦は予想以上に白熱し、盛り上がり、楽しいひとときになりました。部門の垣根を超えた交流の時間を持つことにとても意義があり、今後のYMCAの発展へのチームとしてまとまることができました。



広島YMCA創立85周年記念礼拝 礼拝メッセージ ルカによる福音書 8章22節 向こう岸に渡ろう。

フィンランドの信徒運動体にSLAYという団体があります。ルーテル教会が国教であるなかであえて信徒の運動体としてキリスト教の働きをしています。私も何度かフィンランドにいてその運動体の働きについて学んできました。

その中に「マータ＝ナキユピッサ」という、青少年のゴスペル大会があります。毎年冬が始まる前のとても灰色の季節に行われています。まさにみんなが暗くなって、落ち込んでしまう時期に行われるものです。それが11月で、なんと3万5千人の青少年がフィンランドの全国から集まってくるのです。音楽もハードロックゴスペルもあれば、日本人には優しいゴスペルもあります。一番のハイライトは聖餐礼拝でした。これが配餐だけでも3時間以上かかる礼拝です。3万人を超える青少年が一つの所に集まりキリストのみ言葉によって再び元気をとり戻していく姿に圧倒されました。

このゴスペル大会のはじまりは一人の高校生の突然死からはじまりました。次の日のコンサートを楽しみに練習していた彼はその日交通事故で天に召されたのです。いっしょに練習していた仲間たちは彼のことを思いあえてその日のコンサートを行ったのでした。それが毎年行われるようになり、この大きなゴスペル大会になったのです。

このゴスペル大会の合い言葉は「向こう岸へ渡ろう」というものです。フィンランド語では「マータ＝ナキユピッサ」といいます。彼のいる向こう岸には、イエス様がいて彼は平安が満ちあふれているという信仰から来ています。

広島YMCAは今日85周年を迎えました。いまこの時、あえてこの「向こう岸へ渡ろう」という言葉を広島YMCAにつなげる皆さんのお届けしたいと思いました。いまこの時だからこそ「向こう岸へ渡ろう」です。それはイエス・キリストの言葉でもあります。

本日の聖書を見てみましょう。イエス様が湖の突風を沈めたという奇跡物語です。イエス様の弟子たちは「恐れる」弟子たちでした。湖が突風であれくる中、その風を見て「恐れる」弟子たちがそこにいました。しかし何を恐れていたのでしょうか。それは危うくなったからです。自分たちの命に危険がおよびそうだと感じたからです。自分たちで突風の中で生き延びていく道を探っていた弟子たちでした。しかしそれはできませんでした。あまりにも風が強くて、あまりにも水が大きくなるとなると押し寄せてきたのです。自分たちでは助かる見込みがないことも知らされました。

その恐れる弟子たちはその後どうしたのでしょうか。そこにおられるイエス様に気が付きました。しかし、そのイエス様は寝ておられたのです。まさかこんな大変な時に、自分たちの命が危険にさらされている時に。イエス様は眠っておられました。なぜなら、船は必ず向こう岸に着くと知っておられたからです。どんなに突風がふいて、水をかぶったとしてもこの船は沈まないし知っておられたからです。神様が守ってくださいと信じる信仰があるからです。先がきちんと見えているなかで、いま何をすべきかを考えそれに集中しておけば恐れる必要はなかったと言えます。

さて、ここまで話を聞いてこられた皆さんはもう何が言いたいかおわかりでしょう。この湖の上で翻弄されている舟があります。聖書では船は教会を意味します。むしろキリスト教の団体でもいいかもしれません。イエス様を中心とした団体を舟と考えてもいいです。まさにこの広島YMCAです。逆風、荒波はいま広島YMCAをとりまく困難な状況と考えてもいいでしょう。85周年を迎えて「向こう岸へ渡る」決断をするのか。いまだ向こう岸へわたらないでおくのか。その向こう岸とは何か。まさに強風、荒波に巻き込まれそうな時代を迎えています。どうしたいのか自分たち自身で考え答えをみだしていかなければなりません。果たして答えはあるのかどうか分かりません。

そんな中でイエス様はどうされているのでしょうか。広島YMCAの歴史を振り返り、これまでの働きを確認し、その上に立って「向こう岸へ渡ろう」という言葉を下さっているように思います。私が共に歩むから、私があなたたちを導く「向こう岸へわたろう」と励ましてくださっているのではないかと思います。私たち広島YMCAはイエス様が乗っておられる舟です。神様が中心に乗っておられる舟です。誰一人とりのこされなくて向こう岸にいける舟です。だからこそ85年を迎えて何をすべきかをみんなで考えて一つになりたいと思います。

ルターの言葉で衝撃を受けたのはつぎの言葉です。「使徒はキリスト者に対し、目覚めよ、と言って、勧めている。なぜなら彼らは目覚めていないならキリスト者ではなく、神の道に立ち止まっていることは後退していることだからである。前進するとは、つまり絶えず新たに開始することである」。

いま広島YMCAに大切なのは過去の繁栄ではなく、その歴史の中で培われ継承されてきた賜物をしり、今どうするかだと言えます。過去の歴史からはたくさん学ばなければなりません。しかし昔はああったこうだったということは、キリストの前からだんだん後退していることかもしれません。

自分に出来ることを何かひとつでも絶えず新たに開始していくこと。広島YMCAのために祈ることもまた、新たに自分が開始することです。そこにこそキリストのみ言葉が命を持つてくるのです。

イエス様は、「向こう岸に渡ろう」と言われます。イエス様の言葉には命と力があります。言葉は「心の振動を伝える」のです。「ありがとう」の一言が人を生かすのは、その「ありがとう」に心の振動が込められているときです。私たちはイエス様からこの広島YMCAを必ず導くという御心と「命の言葉」をいただいています。その「命の言葉」が、どんなときでも励まし、慰めを与えてくれるのです。

向こう岸には、神様がいて彼には平安が満ちあふれている。新しい広島YMCAの出発として85年記念礼拝と共に喜び、今日また一歩前へ歩みだしましょう。

2023年10月25日

日本福音ルーテル広島教会 牧師

広島YMCA チャブレン 立野 泰博

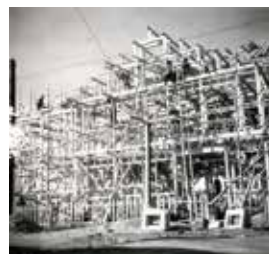
八丁堀の建物の変遷



1946年11月26日 八丁堀の「偕行社」跡地の土地借用に成功



1952年1月27日 起工式での少年会員（左）と佐伯好郎理事長（中央）と浜井信三市長（右）



1952年3月頃 建設中の旧本館



1949年12月21日 軍用兵舎コンセットハット2棟が落成



1952年7月19日「青少年の家」として広島YMCA旧本館が落成



1972年頃の旧本館



1974年湯来町に移築



現在はヴォーリスロッジ



1966年5月6日コンセットハットを解体して新館（1号館の半分）を建設。ユースセンターと命名された。



1967年ユースセンター（1号館）増築のため、旧本館を八丁堀敷地内（現2号館の場所）へ移築した。旧本館は八丁堀内と湯来町の2度の移築を行うこととなる。



1968年5月4日 ユースセンター（現1号館）増築が完成



1968年の広島YMCA全景。旧本館の裏には1956年3月25日に落成した小講堂も見える。これから2号館・3号館と拡大していくこととなる。



1974年11月11日 社会福祉事業団の融資を受け、新館（現2号館）落成。2階を保育園として使用。



1981年12月26日 ビジネススクール（専門学校）新校舎（現3号館）の落成

チャールス・オーバー「YMCAとは何か」

「YMCAは建物ではない。建物を建てるある力である。」「YMCAは会員ではない。会員をとらえるある力である。」

「YMCAは業績ではない。業績をあげるある力である。」「YMCAは組織ではない。組織するある力である。」

「YMCAは地上のものではない。天にまであげねばやまぬある力である。」

「YMCAは自己のために生きんよりは『地に落ちて死ぬ』ことをこそ尊しとする犠牲の精神である。」

現在の活動拠点（2023 年 10 月現在）



1986 年 2 月 広島 Y M C A 本館献堂式



広島 YMCA 中央ランチ



1994 年 4 月 Y M C A 米子医療福祉専門学校開校



1998 年 4 月岩国 Y M C A 保健看護専門学校開校



2017 年 4 月 3 日 東広島 Y M C A



1993 年 4 月 大竹ゆうあいホームが開設
1995 年 4 月 大竹ゆうあいの里委託事業開始



1976 年 6 月 21 日 広島県芸北町、雲月山麓の
21 万坪の土地購入、雲月キャンプ場の使用開始

◆広島 Y M C A ネットワーク（2023 年 4 月 1 日現在）

広島 Y M C A	〒730-8523	広島市中区八丁堀 7-11 TEL：082-228-2266（代表）
東広島 Y M C A	〒739-0043	東広島市西条西本町 28-6 4F TEL：082-423-1717
岩国 Y M C A 保健看護専門学校	〒740-0018	岩国市麻里布町 2-6-25 TEL：0827-29-2233
Y M C A 米子 医療福祉専門学校	〒683-0825	米子市錦海町 3-3-2 TEL：0859-35-3181
大竹ゆうあいホーム	〒739-0651	大竹市玖波四丁目 8-8 TEL：0827-57-7500
雲月キャンプ村	〒731-2311	山県郡北広島町土橋 TEL：0826-35-0384

広島YMCAパートナーシップ

現在広島YMCAでは15のパートナーシップYMCA
と3つの協力YMCAを有しています。



ウェールズ
YMCA (イギリス)
1998年締結



ハノーバーYMCA (ドイツ)
1988年締結



武漢YMCA (中国)
1996年締結



テグYMCA (韓国)
1998年締結



ポハンYMCA (韓国)
1984年締結



ウルサンYMCA (韓国)
1980年締結



ラホールYMCA (パキスタン)
2002年よりサポート



台南YMCA (台湾)
1983年締結



レイテYMCA (フィリピン)
1982年締結



シンガポールYMCA
1996年締結



セブYMCA
(フィリピン)
1984年締結



ダーウィンYMCA
(オーストラリア)
1983年締結



シブYMCA
(マレーシア)
1989年締結

歴代の理事長ご紹介



初代 沢野 源四郎
1938 ~ 1946



第2代 平岩 馨邦
1946 ~ 1948



第3代 佐伯 好郎
1948 ~ 1959



第4代 大越 国治
1959 ~ 1967



第5代 飯田 信一
1967 ~ 1984



第6代 河村 虎太郎
1984 ~ 1987



第7代 井田 憲明
1987 ~ 2002



第8代 民秋 史也
2002 ~ 2010



第9代 黒瀬 真一郎
2010 ~ 2020



第10代 松井 敏
2020.4 ~

パートナーシップ

- 1961 ホノルルYMCA (アメリカ)
- 1979 ハミルトンYMCA (カナダ)
- 1980 ウルサンYMCA (韓国)
- 1982 レイテYMCA (フィリピン) 活動中止
- 1983 台南YMCA (台湾)
- 1983 ダーウィンYMCA (オーストラリア)
- 1984 ポハンYMCA (韓国)
- 1984 セブYMCA (フィリピン)
- 1988 ハノーバーYMCA (ドイツ)
- 1989 シブYMCA (マレーシア)
- 1996 武漢YMCA (中国)
- 1996 シンガポールYMCA (シンガポール)
- 1998 テグYMCA (韓国)
- 1998 ウェールズYMCA (イングランド)
- 1998 アイランドオブハワイYMCA (アメリカ)
- 2015 ベトナムYMCA

協力YMCA

- プサンYMCA (韓国)
- ラホールYMCA (パキスタン)
- ボンベイYMCA (インド)

姉妹提携校

- 1993 ペンブロックシャーカレッジ
・イギリス (広島)
- 1994 中日経済技術学院・中国 (広島)
- 1994 スプリングフィールドカレッジ
・アメリカ (米子)
- 2012 モンゴル蒙古族学校 (広島)
- 2013 75周年パートナーシップ再構築



ハミルトンYMCA (カナダ)
1979年締結



1980年 メキシコYMCAより
サッカー・柔道使節団来日



ホノルルYMCA
1961年締結



アイランドオブハワイYMCA
1998年締結 (アメリカ)



近年では、2015年11月29日 ベトナム
YMCAとパートナーシップ締結を行なう。

歴代の総主事ご紹介



初代 井口 保男
1948～1952



第2代 森田 薫
1952～1953



第3代 奈良 常五郎
1953～1957



第4代 相原 和光
1957～1984



第5代 福井 康雄
1984～1986



第6代 林 辰也
1986～2002



第7代 下坊 和幸
2002～2010



第8代 上久保 昭二
2010～2018



第9代 殿納 隆義
2018～2022



第10代 竹井 幸義
2022.4～



みつかる。つながる。よくなっていく。

公益財団法人 広島YMCA

〒730-8523 広島市中区八丁堀7-11 Tel 082-228-1151 Fax 082-211-0366